

LPガス販売のエネジン（浜松市中央区高林）と、同区広沢のパン屋「プーランジュリータニグチ」は24日、同市内の子ども支援団体にパン35個を贈った。  
（服部剛士）



①パンを贈呈する（左から）藤田社長、谷口さん ②パンを受け取る田口さん（いずれも浜松市中央区）

## 日本一のパン 子ども食堂に

プーランジュリータニグチのオーナー谷口弘樹さん（38）は、昨年2月に開かれた「第6回ベーカーリー・ジャパンカップ」の調理部門で日本一に輝いた。一流の職人が焼くパンを子どもたちに食べてもらおうと、社会貢献活動に取り組むエネジンが谷口さんと協力して企画。司叉の子ども食堂「クンクンターウォロ」にパンを贈った。子どもたちにさまざまな

### エネジン・浜松のパン屋さん

味を楽しんでもらおうと、谷口さんが数種類のパンを用意。卵やハムなどが入ったサンドイッチのほかには、チョコレートやクッキーを使い、エネジンのマスクोटキャラクター「エネフイ」をかたどった菓子パンも贈った。

市福祉交流センター（同区成子町）であった贈呈式で、エネジンの藤田源右衛門社長（66）は「食事を通してだんらんを楽しんでほしい」、谷口さんは「日本一のパンを食べて子どもたちに夢を持ってもらいたい」と期待した。

パンは同日夜、クンクンターウォロが開いた英語教室の活動後に子どもたちに配布した。エネフィのパンを受け取った田口華望ちゃん（4）は「チョコが好きだからうれしい。（家に帰って食べるのが）楽しみ」と笑顔で話した。

